



A1 倶楽部

2022 新春号

【発行所】
さとう栄一
後援会総連合会
〒321-0954
栃木県宇都宮市元今泉5-1-22
TEL.028-662-3300
FAX.028-662-5501

**住めば
愉快だ
宇都宮**

UTSUNOMIYA

宇都宮市長 佐藤栄一

昨年、県内初の地域新電力会社「宇都宮ライトパワー」が昨年の7月に設立されました。本市が51%、足利銀行や栃木銀行もそれぞれ5%出資しており、再生可能エネルギーの地産地消を推進し、2050年カーボンニュートラルの実現に向けて取り組んでいきます。

本年1月から、市役所本庁舎をはじめ、市斎場「悠久の丘」、図書館、文化会館、体育館、公園などの市有施設に電力を供給しています。今後、2023年開業予定のLRTにも供給する予定です。

また、県内初の取組として昨年設立した地域新電力会社「宇都宮ライトパワー」では、1月から小売電気事業を開始し、市役所本庁舎などへの電力供給を行っており、今後、令和5年3月開業予定のLRTにも供給する予定です。市内の再生可能エネルギーで二酸化炭素を排出しないLRTを運行する取組は、世界に類を見ません。こうした脱炭素社会の実現に向けた本市の取組は、国内外から注目されています。

本年も新型コロナウイルス感染症対策や人口減少、少子・高齢化社会など多様化する課題に迅速かつ的確に対応し、誰もが豊かで便利に安心して暮らせるまち「スーパースマートシティ」の実現に向けて、全力で取り組んでまいります。

進化する宇都宮 走れ未来へ

地域新電力ライトパワー、供給開始

県内初の地域新電力会社「宇都宮ライトパワー」が昨年の7月に設立されました。本市が51%、足利銀行や栃木銀行もそれぞれ5%出資しており、再生可能エネルギーの地産地消を推進し、2050年カーボンニュートラルの実現に向けて取り組んでいきます。

子育てしやすい街 全国第2位



日経BPM「日経woman」と日本経済新聞社が実施した「共働き子育てしやすい街ランキング2021」において、宇都宮市が総合編2位を獲得しました。

余裕のある認可保育所定員や、保育の質を担保するためのガイドラインやマネジメント研修などへの取組のほか、子育て世代への経済的な補助（高校生までの医療費無償化、第3子以降の保育料や一時預かり事業利用料等の無償化等）、また「親子子どもの居場所づくり事業」やLINEによる子育て相談サービスなどの取組が評価されました。



公共交通の運賃負担を軽減



昨年の6月30日から、市内の路線バスの運賃を乗車1回につき400円までとする上限運賃サービスが始まりました。土日祝日を含む午前9時から午後4時に、地域連携ICカード「tetra」や「S u i c a」などの交通系ICカードを利用した場合に対象となります。今後はLRTや路線バス・地域内交通を乗り継ぎ「どこから乗っても、どこまで行っても500円以内」の利用環境をできるだけ早く実現してまいります。

田んぼダムの更なる普及拡大へ

総合治水・雨水対策の推進に向け、大雨の際に雨水を一時的に貯める「田んぼダム」の実施協力に関する協定をこれまでに5土地改良区と締結しました。現在、360名の農業者の協力のもと、順次、田んぼダムの整備を進めており、今年度末には、目標値の4割を超える約90万㎡の貯留量を確保できる見込みです。引き続き、農業者の理解促進に取り組みながら、田んぼダムの普及拡大を図り、非常時でも安心して暮らせるまちを実現してまいります。



▲排水を調整

全市立中学校体育館に空調完備



昨年の7月に市内の全市立中学校25校の体育館に、空調設備の設置が完了しました。近年では、温暖化により「熱中症警戒アラート」が出た際に体育の授業や部活動を中止した学校もありましたが、これからは真夏でも快適に運動ができると期待されます。

水上公園に防災機能完備

昨年の8月に水上公園がリニューアルオープンしました。東日本大震災で被災したプール施設を廃止し、子ども向けの遊具や噴水、大人向けの健康遊具などを設け、子どもからお年寄りまで幅広い年代が楽しめる憩いの場として9年ぶりに開園しました。



▲リニューアルした水上公園

JR宇都宮駅の東側がとにかく熱い

今年の11月にJR宇都宮駅東口地区が 全体まちびらき



今年の11月にJR宇都宮駅東口地区が地区全体のまちびらきを迎えます。

当地区では、まちびらき第1弾として、今年の12月に、脳卒中や心筋梗塞などの予防医療と先制医療に特化した新しい病院「脳脊髄センター・シンフォニー病院」がオープンしました。

これから第2弾として、5月に県内に初展開する野村不動産のブラウド宇都宮(分譲マンション)が完成する予定です。

そして、第3弾として、8月にカンデオホテルやヨークベニマル・プリオホールディングスなどが入居する複合施設が開業する予定です。

さらに、11月には2千人収容の大ホールや7百人収容の中ホールのほか大小会議室を複数備える地上4階建ての交流拠点施設と、6千㎡の広さを有し、1階から3階で構成する立体的な交流広場が供用を開始する予定です。

本市の玄関口にふさわしい魅力ある空間が誕生します。

LRT車両が続々と納入



▶宇都宮市内に納入されたライトライン



▶見学会でライトラインに乗車する福田知事と佐藤市長

昨年の5月27日に次世代型路面電車(LRT)の車両が初めて納入されました。

まだ薄暗い午前4時半ごろ最初の車両が車庫基地に入ると、沿道には鉄道ファンの姿もあり、「これが走るんだ」や「やっとな来た」など開業に期待が高まります。

お披露目された車両は、雷をイメージした黄色が引き立つ流線型で、定員は国内の低床式車両で最多となる約160人、座席数は50席で2か所の車いすスペースのほか、ベビーカーや自転車を持ち込めるフリースペースもあります。

2月末では全17編成のうち11編成が納入されておりあります。

LRTの駅やレールの工事も完成へ向けて



▶グリーンスタジアム前停留所も間もなく完成



▶レール敷設工事も着々と

2023年の3月に開業を予定しているLRT整備事業ですが、清原地区の3つの停留所はほぼ完成し、鬼怒川橋梁ではレールの敷設工事も間もなく完了します。車両基地も今年の春には管理棟に加え、検修庫が完成する予定で、試運転も年内には運行を予定しています。また、沿線にはマンション開発が進んでおり、LRT整備への期待が感じられます。

これから始まる新しい宇都宮「HELLO, NEW CITY」が間もなく誕生します。

LRT整備などにより人口増、ひとつのまちが誕生



▲最新設備の小学校

小学校周辺には住宅街▶

宇都宮市内に新設された「ゆいの杜小学校」の開校式が昨年4月8日に行われました。清原中央小の児童数は2012年以降右肩上がり、500人程度だった児童が8年で倍近くなり、普通教室が不足していることから、市内で約30年ぶりに新しい小学校を開校することにになりました。清原地区は、今後もLRT整備事業などに伴い人口増が見込まれる地区で、2025年度には全校児童が1千人になると推計されています。

佐藤栄一市長は開校式で「多くの仲間とともに充実した学校生活を送り、新しい伝統を築いてほしい」とあいさつしました。

約30年ぶりに小学校新設

年末以降に決定した 新規・拡充支援策

新型コロナウイルス感染症支援策

■最新の情報は、宇都宮市のホームページでご確認ください

検査体制	個人向けPCR検査	対象者を拡充
	ビジネスPCR等検査支援事業	対象者を拡充
ワクチン接種		3回目接種の前倒し
生活支援	子育て世帯等臨時特別支援事業	子育て世帯に対し臨時特別給付金を支給(対象児童1人あたり10万円)
	住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金	住民税非課税世帯、家計急変世帯に対し臨時特別給付金を支給(1世帯あたり10万円)
経済対策	新型コロナウイルス感染症対策特別資金	受付期間延長(令和4年3月31日まで)
	宮の食ベトクチケット第2弾 宮の買いトクチケット	利用期間延長(令和4年3月31日まで)
	宮の事業復活支援金	国の制度の対象とならない、売り上げが減少した市内の中小法人・個人事業主を支援

